

北川地域ユネスコエコパーク

拠点施設整備基本構想（案）



延岡市北川総合支所 地域振興課

目次

第1章 構想策定の目的等	1
1. 構想策定の目的	1
2. 策定の方向	1
第2章 観光資源等の現況	3
1. 北川地域の概況	3
2. ホタルの里休暇村及び北川水系等	3
3. 祝子川温泉美人の湯及び祝子川水系	6
4. 道の駅北川はゆま	7
第3章 北川エコパーク観光周遊ルートの形成構想	8
○はじめに ～観光による地域活性化の視点～	8
1. ホタルの里休暇村を拠点とする観光周遊ルート(北川水系)の形成	10
2. 祝子川水系観光周遊ルートの形成	14
3. 「道の駅北川はゆま」の整備充実	18
4. 観光消費の促進方策の検討	19
第4章 拠点施設(ホタルの里休暇村・祝子川温泉美人の湯)整備構想	20
1. 観光交流館「エコパーク・ホタルの里」(仮称)プロジェクト	20
2. 「祝子川温泉エコパークセンター」(仮称)プロジェクト	27
第5章 克服すべき課題	30

北川地域ユネスコエコパーク拠点施設整備基本構想

第1章 構想策定の目的等

1. 構想策定の目的

大分県と宮崎県にまたがる祖母・傾・大崩山系は、急峻な岩峰や数々の渓谷など独特の景観美と原生的自然と多様な生態系が、2017年6月に「祖母・傾・大崩ユネスコエコパーク」として登録された。

ユネスコエコパークは、保存機能・学術的研究支援・経済と社会の発展という3つの機能が相互に強化する関係性を持っている。

核心地域・緩衝地域・移行地域の全てを有する北川地域は、生物多様性の保存や環境に配慮した経済活動など持続可能な発展を目指す必要がある。

このような背景のもと、祖母・傾・大崩ユネスコエコパーク地域における北川地域の役割や各施設のあり方及びその整備方針を検討し、ユネスコエコパークを活用した北川地域独自の地域活性化を図るため、基本構想を策定する。

特に、下記の2項目を検討する。

＜祖母・傾・大崩ユネスコエコパーク＞



- ① 道の駅北川はゆまを起点とする観光周遊プログラムづくり
- ② 拠点施設(ホテルの里休暇村、祝子川温泉美人の湯)の利活用の方法を含めた施設整備の方策

2. 策定の方向

目的を達成するために自然と共生する地域づくり、観光による地域活性化に視点を置き、下記(1)～(3)の方向から構想を策定する。

(1) 基本的な考え方

- ① ホテルの里休暇村(ホテルの館、ホテルの宿、川舟の館)を北川エコパーク全体の観光・交流・周遊の中心施設と位置付け、ガイドンスセンター機能(資料の展示、見学、観光案内窓口・案内ガイドの手配等)、お休み処(飲食サービス)、交流スペース等を整備する。
- ② 祝子川温泉美人の湯を祝子川地域・大崩山圏域の中心施設として位置付け、温泉の機能の他にガイドンスセンター機能、観光案内所機能等を整備する。
- ③ 観光スポットに付加価値を加え、売れる商品(＝観光商品)に磨き上げる。
- ④ 新しい観光資源、地域固有の産物(加工品、農林水産物等)を発掘する。
- ⑤ SNSで発信が多くなる(＝インスタ映える)地点、時間、季節、植物、動物、料理、伝統行事等を発掘・撮影・紹介する。
- ⑥ 観光スポットの一つ一つは魅力度、人気度、認知度が低い状況にあるので 付加価値を造成して複数地点及び全体の誘客拡大に取り組む。

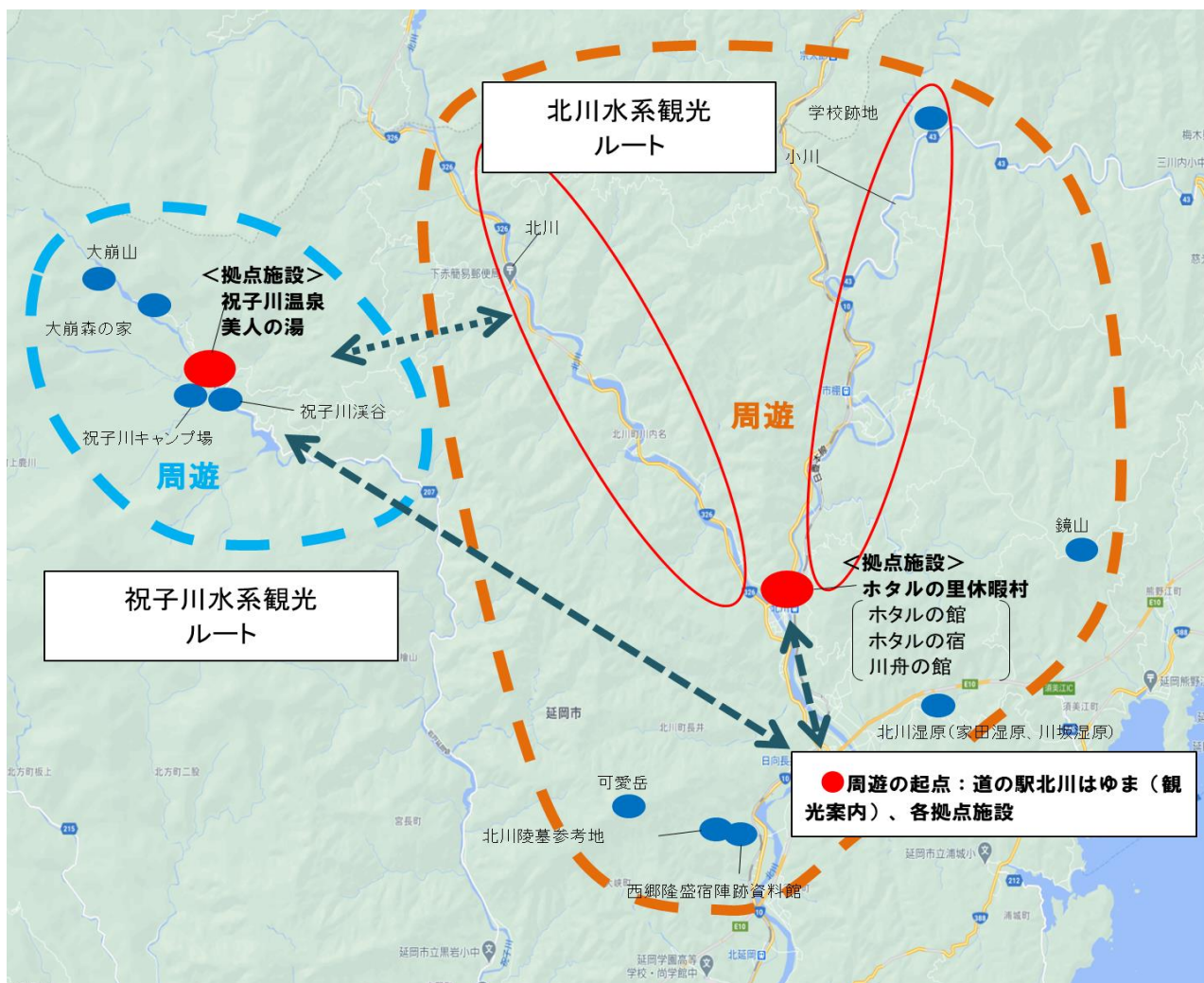
⑦民間(例えば食事・物販等に実績を有する道の駅のべおか株式会社)と連携して、観光商品の開発、ルートの魅力度アップ等の協力を求める。

(2)北川エコパーク(北川ユネスコエコパークの略称:以下同じ)観光周遊ルートの形成

観光周遊ルートは、道の駅北川はゆまや拠点施設を起点・終点とする北川水系、祝子川水系の2系統で形成する。

- ①ホテルの里休暇村(ホテルの館、ホテルの宿、川舟の館…以下「ホテルの里休暇村」という)を拠点とする観光周遊ルート(北川水系)
- ②祝子川水系観光周遊ルート
- ③道の駅北川はゆまの機能の充実

＜道の駅北川はゆまや拠点施設を起点（終点）とする観光周遊ルートの形成＞



(3) 拠点施設の整備

前記「基本的な考え方」に沿って、北川エコパーク観光周遊ルートの中核的役割・機能を担う下記①、②の施設を拠点施設として整備する。

- ①ホテルの里休暇村の拡充整備
②祝子川温泉美人の湯の拡充整備

第2章 観光資源等の現況

1. 北川地域の概況

- ・北川地域は地理的、地形的には北川水系と祝子川水系に二分されている。
- ・北川水系は地形的条件により水害に襲われることが多い。
- ・産業は農業を中心に第1次産業の割合が大きい。
- ・延岡市中心部に近く、東九州自動車道ICは、地域の「玄関」であるなど、道路の利便性は高く、加えて日豊本線の利用が容易な地理的条件にある。
- ・観光スポットのほとんどが上記北川水系と祝子川水系沿いにある。その中で、祝子川上流(源)にある大崩山はユネスコエコパークの「核心地域」となっている。
- ・北川地域は過疎地域であり人口減少と高齢化がすすんでいる。

2. ホタルの里休暇村及び北川水系等

ホタルの里休暇村及び北川水系の観光資源等の概要、活動状況、入込客数等は次のとおりとなっている。

(1)ホタルの里休暇村

①ホタルの館 ※隣接する「ホタルの宿」「川舟の館」と一体的管理及び利用

<概要>

- ・設立:平成5年7月 管理:指定管理者 のべおか道の駅株式会社
- ・建物:本館…木造1階建て
- ・客室:大広間80畳
- ・食事:朝食・夕食(提供が可能)
- ・ホタル飼育コーナー、資料室、研修室等



※同敷地内の運動公園を利用するスポーツ合宿・研修等に適している。
→合宿者数は例年500～600人(高校・大学のクラブ・グループが主流)

施設	規模等(広さ、コートの面数等)
イベント広場	軟式野球場、ソフトボール場、テニスコート(2面)、グラウンド(1周200m、直線100m・8コース、照明設備)
体育館	ミーティングルーム、トレーニングルーム、ステージ、アリーナ等…広さ1,009㎡、観客ベンチ520人

②ホタルの宿

<概要>

- ・設立:平成10年6月 管理:指定管理者 のべおか道の駅株式会社
- ・建物:本館…木造1階建て
- ・客室:洋室(2)、和室(6)
- ・食事:朝食・夕食(提供が可能)
- ・浴室、研修室等

※合宿者を除いた宿泊者数は例年250～400人



③川舟の館

<概要>

- ・設立:平成7年3月 管理:指定管理者 のべおか道の駅株式会社
 - ・建物:本館…木造1階建て
 - ・展示室等
- ※管理人が常駐していないため現在はほとんど利用されていない。
(平成18年までは資料館として利用されていた。)

<川舟の館>



④ホタルの里休暇村の利用状況

a. イベント等

- ・北川ホタルまつり(主催:実行委員会) 入込客…約5,000人
- ・産業祭・文化祭(主催:実行委員会) 入込客…約3,000人

b. ホタルに関する活動状況

- ・ホタルの学校(主催:北川やっちみろ会) 参加者…1回約30人
- ・河川清掃(主催:北川やっちみろ会) 参加者…約5人
- ・遮光ネットで保護(主催:北川やっちみろ会) 参加者…約20人
- ・平成27～29年 ホタル鑑賞舟(主催:北川漁協) 参加者…約100人

(2)北川・小川

①ホタルの育成…河川清掃、遮光ネットによる保護

②アウトドアスポーツ、釣り

- ・カヌー教室(主催:北川流域ネット、NPO法人ひむか感動体験ワールド)
- ・魚釣り大会、鮎のちょんがけ大会(主催:北川漁協)
- ・ラフティング(小川5～8月)…出典:アウトドア天国延岡

<小川のカヌー>



<鮎のちょんがけ大会>



(3)北川湿原(家田湿原、川坂湿原)

- 湿原を守る活動グループ…家田の自然を守る会、川坂川を守る会
- 観察会の状況(令和元年度)…主催:宮崎県、回数:延べ4回、参加者:各回30～40人
- 入込客数…例年2,500人程度

＜北川湿原＞(令和2年9月20日 宮崎日日新聞)



(4)鏡山

- ①スカイスports(ハンググライダー、パラグライダー)の県北の拠点
 - 利用者数…例年300～400人
 - スカイスportsフェスティバル(5月上旬)
 - ②鏡山牧場
 - イートインスペース:焼肉(コンロ貸出)、店内:牛肉(黒毛和牛)の販売
- 〇入込客数…①+②=例年1,200人程度

＜鏡山＞



(5)西郷隆盛宿陣跡資料館

- 明治10年西南戦争、和田越合戦に敗れた西郷隆盛が本陣とした民家を資料館として保存している。
- ※平成30年NHK大河ドラマ「西郷どん」で関心度アップ。
- 延岡ガイド・ボランティアの会が「西郷どんコース」として有料ガイドを実施。(ガイドは9人)

(単位:人)

	平成27年	平成28年	平成29年	平成30年	令和元年
入込客数	2,880	3,001	9,748	30,641	15,584

＜西郷隆盛宿陣跡資料館＞



(6)その他の観光資源

- ①北川陵墓参考地
 - 可愛岳のふもとに位置し、天孫ニギノミコトの終焉地として伝えられ、宮内庁から陵墓参考地として認定されている。西郷隆盛宿陣跡資料館に隣接している。

②可愛岳

- ・西南戦争ゆかりの地。九州百名山の一つ。

(7)地域の特産物・料理等

<農産品等>

しきみ、ホタル籠、北川ウナギ、メンパ(曲げわっぱ)、鏡山牧場の黒毛和牛・ローストビーフ、紅溪石

<料理>

鮎料理、猪鍋料理、ウナギかば焼き、川ガニ料理

3. 祝子川温泉美人の湯及び祝子川水系

祝子川温泉美人の湯及び祝子川水系の観光資源等の概要、活動状況、入込客数等は次のとおりとなっている。

(1)祝子川温泉美人の湯

- ・設立:平成12年9月 管理:指定管理者 有限会社祝子川温泉美人の湯
- ・屋内風呂と露天風呂 ※レストランは休業中
- ・地域の特産品販売

(単位:人)

	平成29年	平成30年	令和元年
入込客数	10,518	9,434	8,823

<アウトドアレジャー>



(2)祝子川キャンプ場

①施設

- ・コテージ5棟、テント10張

②宿泊者数

- ・繁忙期は夏休みシーズン、冬は登山客、3～9月は釣り客が多い

(単位:人)

	平成29年	平成30年	令和元年
宿泊者数	819	882	799

<祝子川溪谷>

(3)祝子川溪谷

①アウトドアレジャー

- ・溪流釣り(ヤマメ)の人気の高い
- ・キャニオニングのガイドは3人

(単位:人)

	平成29年	平成30年	令和元年
入込客数	2,157	1,936	1,827

②景観

- ・大崩山を源とする祝子川の清流が花崗岩を削ってできた溪谷である。清流と巨岩が周りの木々と相まって、調和した四季折々の自然美が広がる。



(4)大崩山

- ①祖母・傾・大崩ユネスコエコパーク…核心地域
- ②生態系…「大崩山」「祝子川溪谷」は、モミ・ツガ・ナラ等の原生林やササユリ、モウソウキンメイチク(国の天然記念物)といった希少植物も自生している自然の宝庫である。
- ③活動しているガイド・グループ

NPO法人ひむか感動体験ワールド…令和元年度ガイド実績:4回、参加者数18人

(単位:人)

	平成29年	平成30年	令和元年
大崩山登山者数	8,493	7,280	6,743

<落水の滝>



<アケボノツツジ>



(5)大崩森の家

- ・建物…ロッジ(宿泊・休憩施設)

(単位:人)

	平成29年	平成30年	令和元年
森の家宿泊者数	61	32	9

4. 道の駅北川はゆま

(1)アクセス

- ・東九州道北川IC、国道10号

(2)施設

- ①直売物産館 ②お土産館 ③レストランはゆま ④北川はゆま木工室 など

(3)管理主体

- ・のべおか道の駅株式会社

(4)特色

- ①のべがくプリン

延岡学園高校調理科と共同開発のスイーツ

- ②清流北川の恵み「鮎」と「うなぎ」のメニュー

<時を知らせるからくり時計>



<鮎とうなぎのメニュー>



<道の駅北川はゆま>



第3章 北川エコパーク観光周遊ルートの形成構想

○はじめに ～観光による地域活性化の視点～

(1)「売れる商品」の開発

観光による地域振興とは観光による「地域活性化」と同義であり、同時に「観光の産業化」とも言える。

つまり、産業化するためには「売れる商品」を開発、提供する必要がある。

この「売れる商品」とは、お金を払っても(使っても)「買ったり」「見たり」「食べたり」「触れたり」(つまり、五感を刺激すること)をしたい人たちを集めることができる物品、サービス、イベント等である。

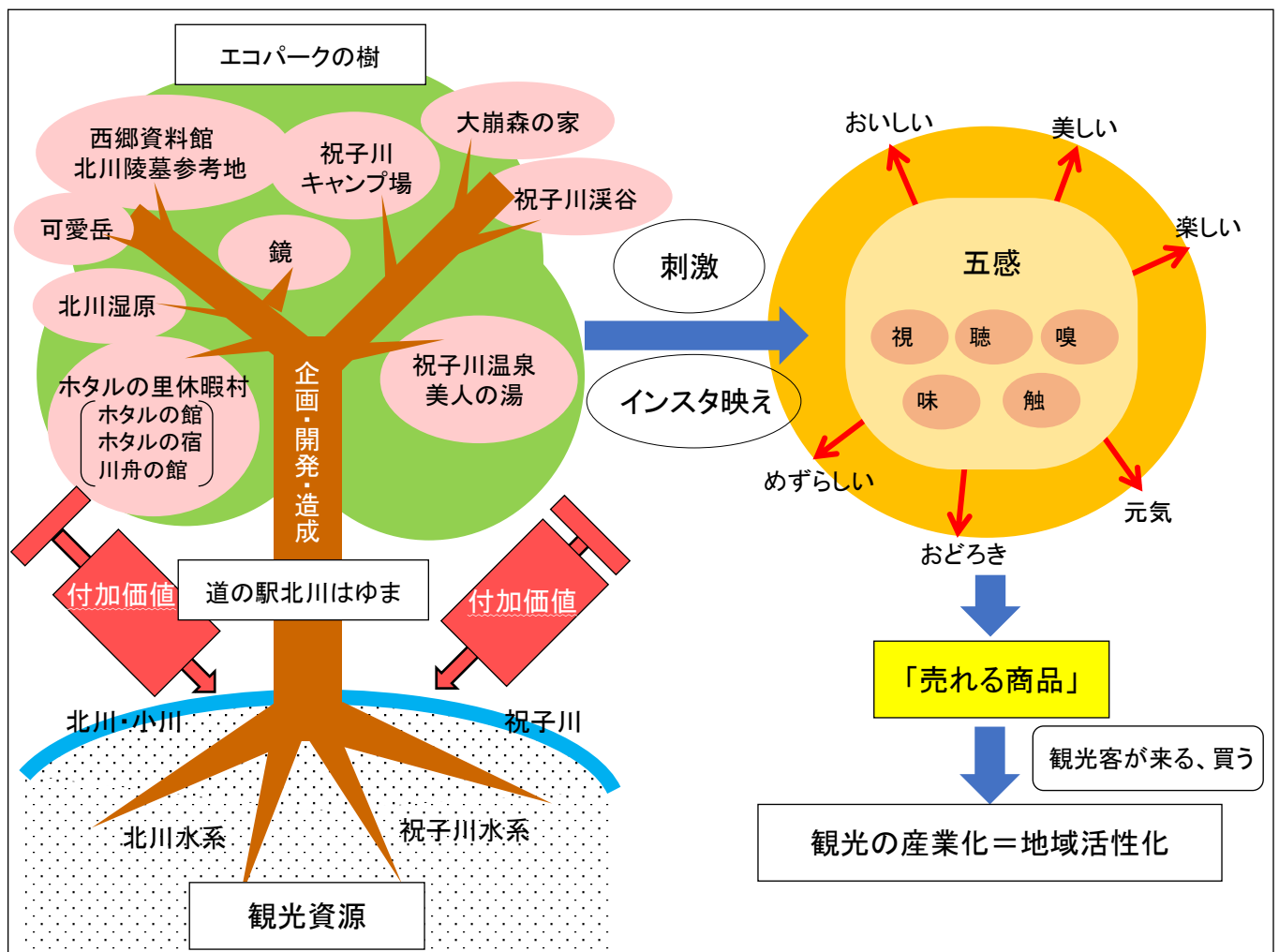
五感(視覚、聴覚、嗅覚、味覚、触覚)を刺激すると、楽しさ、嬉しさ、美しさ、驚き、元気、珍しさ等の「脱日常性」「非日常」の感覚を体験することになり、その「商品・サービス」(観光)に惜しみなく消費のパワーが湧出する。

このようなことから、観光で地域振興・活性化を図るためには、地域が有している観光の観光資源に人間の五感を刺激するような付加価値を加えて、「売れる商品」にまで磨き上げることが重要な視点である。

なお、近年は若者を中心に「インスタ映え」する観光スポット、料理等への人気が高いことに対応する視点も必要である。

また、観光で地域振興・活性化を図るためには、地域住民の理解と協力が不可欠であり、地元住民と行政や関係団体等とが一緒になって考えて作り上げていく必要がある。

＜売れる商品開発の模式図＞



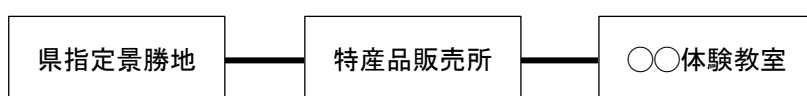
(2)「商品」の売り方

次の3つの型がある。

①点型…単独(1つの「商品」)で売れる<全国的な認知度、人気とも高い>→他地域では真似できない。

- ・国宝級の神社仏閣、歴史遺産(吉野ヶ里、熊本城)
- ・祭り・イベント(さっぽろ雪まつり、阿波おどり、有田陶器市)
- ・温泉(草津、指宿)

②線型…点型よりも「小さい商品」<県内有数のスポットで九州では認知度が高い>を2～3個を線で結んで売る。



③面型…線型よりも「もっと小さい商品」<県内でも認知度・人気とも下位>をセット(束)にして、当該地域及び隣接地域が連携して売る。(観光客の動線が長くなる)

※「線型」の拡大、広域版となる。

1. ホタルの里休暇村を拠点とする観光周遊ルート(北川水系)の形成

(1)はじめに

①第1章の「2. 策定の方角 (1) 基本的な考え方」(P1)に沿ってこのルートの拠点施設となるホタルの里休暇村の拡充整備を中心に北川水系観光ルートを形成する。

②このルートの主な観光スポットは次のとおりとする。

- a. ホタルの里休暇村
- b. 北川湿原
- c. 鏡山(スカイスportsなど)
- d. 北川・小川の清流(釣り、カヌー、キャンプなど)
- e. 西郷隆盛宿陣跡資料館、北川陵墓参考地
- f. 可愛岳

③各観光スポットの特色、魅力等を活かして「見る観光」(観察、見学、鑑賞、撮影等)と「体験する観光」(カヌー、スカイスports等)の2つの視点から「売れる商品」を造成し、ルートメニューを構成する。

④各観光スポット(「点」)を「線」でつなぐツール(手段・方法)として、自転車(＝レンタサイクル)を活用し、自然体験、アウトドア体験、スポーツ体験、リゾート体験を楽しむ観光商品・ルートを企画・造成する。

(2)観光商品の造成の方向

前記「(1)はじめに」に沿って、先進事例等を参考にしながら、各観光スポットの現状、ポテンシャル(潜在的可能性)等に付加価値(検討案)を加え、売れると思われる商品(＝観光商品)の造成イメージを提案する。

※観光商品の造成に向けての4つの視点…①ルートの拠点施設、②見る観光、③体験する観光、④その他(特産物等)

	観光スポット	現況	付加価値化の手法としての可能性 (検討等)	「観光商品」のイメージ(案)	先進事例
ルートの拠点施設	ホテルの里休暇村 ↓ [別掲(P15): 観光交流館「エコパーク・ホテルの里プロジェクト」(仮称)]	・スポーツ合宿(収用可能50人)…近年延べ600人程度の利用 ・のべおか道の駅(株)が食事提供 ・総合運動公園・体育館が隣接 ・北川ホテルまつりの会場	・観光交流施設 ・ホテルの乱舞等を映像化(3次元のメガネ) ・快適な休憩サービス ・スポーツ合宿の誘致 ・レンタサイクル基地 ・多種多様な自転車(スポーツ・2人乗り・電動型など)の配置	観光交流館「エコパーク・ホテルの里」(仮称) ・北川エコパークのガイドンスセンター ・軽食・子育て支援ルーム(トイレ・授乳室) ・スポーツ＋観光＝スポーツ観光ツアー ・いつでもどこでも誰でも楽しめる自転車ツーリング ・北川・ホテルの里サイクリングコースの新設・PR	・串間市都井岬観光交流館「パカラパカ」屋内型の休憩スペースで24時間開放のバリアフリーのトイレ・授乳室、軽食コーナー、地場製品の販売
見る観光	北川湿原(家田、川坂)	・広さ20ha ・環境省「日本重要湿地500」に選定 ・両湿原にはそれぞれ「守る会」がある ┌・草刈り・外来種除去作業 └・観察会、ウォーキングイベントの開催 ・入込客数 近年は2700人程度(年間)	・季節ごとの観察会の実施 ・小中学校、高校、大学の授業及びクラブ活動、愛好会へのPR ・駐車場、トイレ等の整備 ・レンタサイクルの活用(道の駅北川はゆまで乗り捨て可能 ※以下同じ)	・名物ガイド(ガイドの達人)の配置(散策プラス小舟ツアー:食事付き) ・湿原サポーターの募集(特典付き) ・便利・快適なアクセス ・北川・ホテルの里サイクリングコースの「休憩地」(おもてなしサービス付き)	・大分県九重町「タデ原の自然観察会」九重の自然を守る会が主催して、毎週日曜日及び休日に観察会を開催。平成30年度は56回の観察会を開催し、延べ861人が参加。
	西郷隆盛宿陣跡資料館 北川陵墓参考地	・延岡ガイド・ボランティアの会ガイド9人(有料) ・地元ボランティアガイド8人(えのたけ会) ・令和2年入込客数約16,000人	・鹿児島県内で所蔵されている西郷隆盛の関係資料・遺品を借りる。 ・神話(時空を超えた出会い)	・西郷隆盛特別展覧会(仮称)の企画(年に数回) ・名物ガイドの養成 ・西郷隆盛ゆかりの地スタンプラリー ・記念グッズの販売	
体験する観光	北川、小川	・北川流域ネット…カヌー教室 ・北川漁協…魚釣り大会、アユのチョンガケ ・小川のカヌー、ラフティング ・川遊び、キャンプ	・ホテルの里づくり ・カヌー、ラフティングの距離が長い(5～25km ※コースによって異なる) ・子ども・素人もプロ級もアユが釣れる「シカケ」(ポイント・テクニックなど)づくり ・宿泊・滞在型の施設・サービスの整備 ・レンタサイクルの活用	・ホテルの乱舞→ホテル関係のイベント・物販 ・初級者から上級者まで楽しめるコースの設定、個人・家族・グループ向けの練習コース、教室の実施 ・川舟で遊覧(食事付き)ツアー ・「アユ釣りの名所」のPR ・「北川・小川の宿」(仮称)のPR→松葉小学校跡地の活用(林間学校、キャンプ等)、農家民泊	・カヌー(栃木県さくら市「カエルアドベンチャー(株)」)初心者向け、家族向け、ペア向け、シニア向け、団体グループ向けなどで対象者ごとにコースを設定。→特長:対象者ごとにコースが設定されているので、体験しやすい。
	鏡山	・スカイスポーツの基地…パラグライダー、ハンググライダー(300～400人) [延岡愛好会メンバー約30人] 大会9回 ・鏡山牧場…土・日はステーキ・焼肉開店 グラスフェッド牛の販売 ・山頂…1万本のツツジとトレッキングコース	・スカイスポーツ:①スタート場所の整備 ②愛好者、見学者の拡大(土・日の焼肉販売と共同企画) ・スカイレジャーの九州・全国大会の誘致	・ハンググライダー・パラグライダー鏡山大会の充実(素人から有資格者まで参加) ・ハンググライダー全国大会の誘致(有資格者及び「バイロンレース」)	・パラグライダー・ハングライダーなどスカイスポーツ(宮崎県都城市「都城市金御岳杯南九州ハンググライダー大会」) 全国各地からハンググライダーの愛好家が集結。ギャラリーが体験できるイベントも開催。(熱気球搭乗、パラグライダー試乗体験等)
	可愛岳	・可愛岳登山祭(参加者数 約40人) ・西郷トレイル(参加者数 20～40人)…西郷隆盛の敗走路をめぐるトレイル(祝子川～日之影～高千穂のコース 約60km)	・安心して登山等が楽しめる登山道の整備 ・祝子川越えルートの整備 ・ガイドの養成	・可愛岳フォトコンテストの開催 ・九州百名山「可愛岳登山競争(仮称)」の実施 ・九州最長のトレイルの実施	

(3) 観光交流館「エコパーク・ホテルの里」(仮称)プロジェクトの推進(別掲P20)

- ①観光交流人口の拡大
- ②エコパークらしい自然と共生する観光地づくり
- ③ホテルの里休暇村の再構築を目指して観光交流拠点施設を整備する。

(4) 観光ルートの形成

①観光交流館「エコパーク・ホテルの里」(仮称)プロジェクトの推進(別掲P20)

ホテルの里休暇村をルートの中心施設に位置付け、観光交流拠点として整備する。

②観光スポットの施設・設備の整備とニーズに応えるサービスの提供

観光ルートは 道の駅北川はゆまを起点(終点)と想定し、その上で北川水系観光ルートはホテルの里休暇村をルートの拠点及びスタート(ゴール)地点とする取組をめざす。このため、ホテルの里休暇村は前記のような「観光商品」(イメージ)を造成できるように施設・設備のリニューアル、ニーズ(簡単な飲食・土産品等の提供、子育て支援スペース等)に応じたサービスの充実に取り組む。

③面型または線型の観光コースの形成

また、他の観光スポットについても前記の先進事例、「観光商品」(イメージ)の造成等に取り組み、レンタサイクルの活用を含め、各スポットを前記(P9)「面(円形)型」または「線型」の観光ルートの形成をめざす。

④「見る観光」と「体験する観光」の特長を活かす

北川水系観光ルートは「見る観光」と「体験する観光」に大別されることから、それぞれの特長を“魅力”として発揮、発信できるような取組を進める。例えば、対象者(観光客)を「見る観光」は観光客はもとより“観察・学習”に視点を置いて、小中学生の学校授業への組み入れ、高校生・大学生・研究者等の同好会組織の設立など いわゆるサポーターの養成等に取り組む。一方、「体験する観光」の対象者は、初心者から上級者まで1人でも、カップルでも、家族でも、グループでもガイド付きで楽しめるメニュー及びコース(30分、1時間、半日等)を提供する。

⑤観光を担う人材の確保と養成

ア.「北川エコパーク観光応援隊(仮称)」の結成

魅力ある観光ルートを形成するためには、行政と民間の連携を進める必要がある。

その中で、民間の役割として、地域住民、ボランティア、地域活動グループ(北川やっちみろ会、北川流域ネット、家田の自然を守る会、川坂川を守る会等)、NPO(NPO法人ひむか感動体験ワールド等)などが参画する「北川エコパーク観光応援隊(仮称)」の結成に取り組む。

「応援隊」の活動内容(無償)…(例)ホテルの育成、観光スポットの草刈りや清掃、ガイド(案内・説明等)など。

イ. 有償ボランティアガイドの養成

無償のボランティアガイド(例:家田の自然を守る会、川坂川を守る会等)などを対象に知識、話術、パフォーマンス等を磨き上げるための研修会等の開催に取り組み、有償のボランティアガイドへの養成をめざす。

ウ. イベントなどの体験プログラムを企画・実施する専門家・グループの育成・拡大

地域活動グループ(北川やっちみろ会、北川流域ネット、家田の自然を守る会、川坂川を守る会等)やNPO(NPO法人ひむか感動体験ワールド等)などのカヌー、登山、パラグライダー、釣りなど体験プログラムのガイド・インストラクター資格習得の取組を支援することで、専門家・グループの育成・拡大をめざす。

環境保護の意義実感

北川湿原、行轅山で観察

延岡高

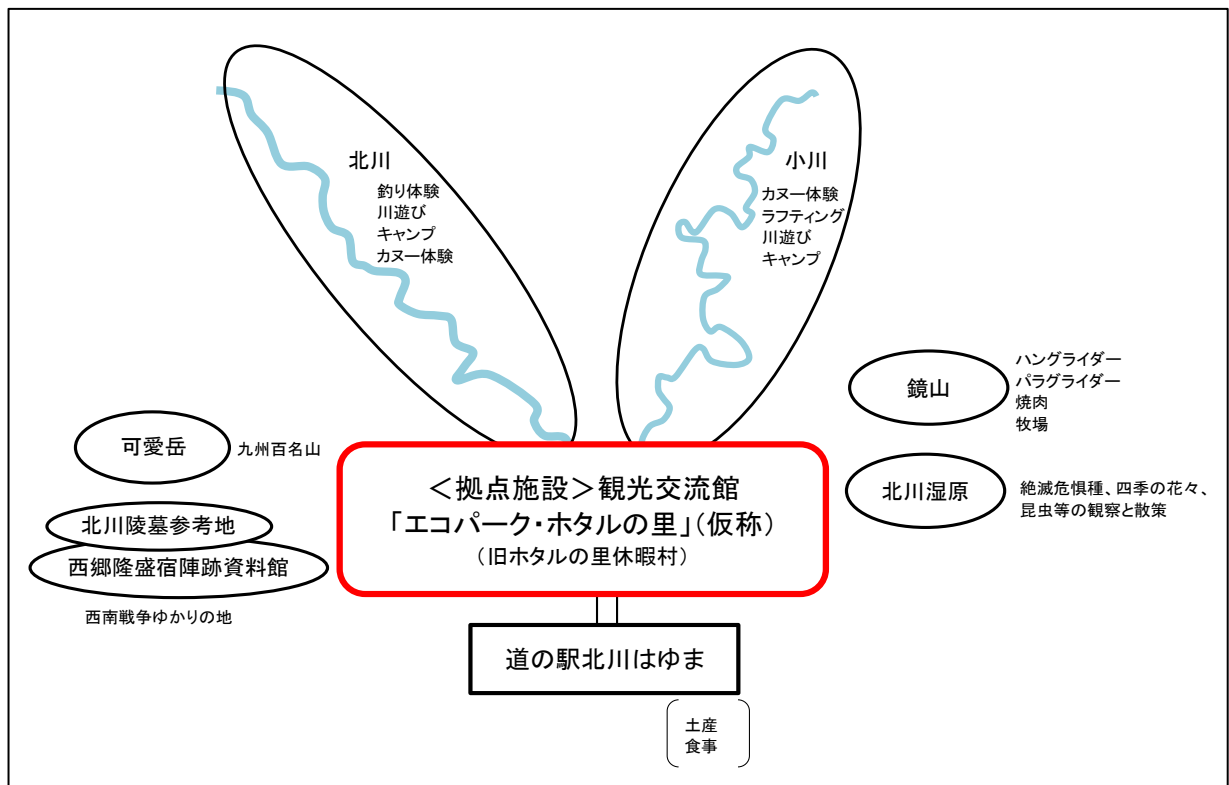
延岡市の延岡高（川越勇二校長、729人）普通科1年生は6日、同市北川町の北川湿原などでフィールドワークを行った。研究者や地域住民から解説を受けながら、豊かな自然環境保護の実践的な活動に触れた。同校が文部科学省の指定を受け本年度から取り組むスーパーサイエンスハイスクール（SSH）事業の一環。SDGs（持続可能な開発目標）に地域で取り組むための課題を探った。このうち「祖母・傾・大崩ユネスコエコパーク」移行地域内にある行轅山のフィールドワークや学校内で海洋生物の観察調査も行った。学習成果は来年3月に校内で1年生全員が発表する。（久保田順司）

延岡市の延岡高（川越勇二校長、729人）普通科1年生は6日、同市北川町の北川湿原などでフィールドワークを行った。研究者や地域住民から解説を受けながら、豊かな自然環境保護の実践的な活動に触れた。同校が文部科学省の指定を受け本年度から取り組むスーパーサイエンスハイスクール（SSH）事業の一環。SDGs（持続可能な開発目標）に地域で取り組むための課題を探った。このうち「祖母・傾・大崩ユネスコエコパーク」移行地域内にある行轅山のフィールドワークや学校内で海洋生物の観察調査も行った。学習成果は来年3月に校内で1年生全員が発表する。（久保田順司）



延岡高1年生が家田湿原で行ったフィールドワーク

<北川水系観光ルート構成>

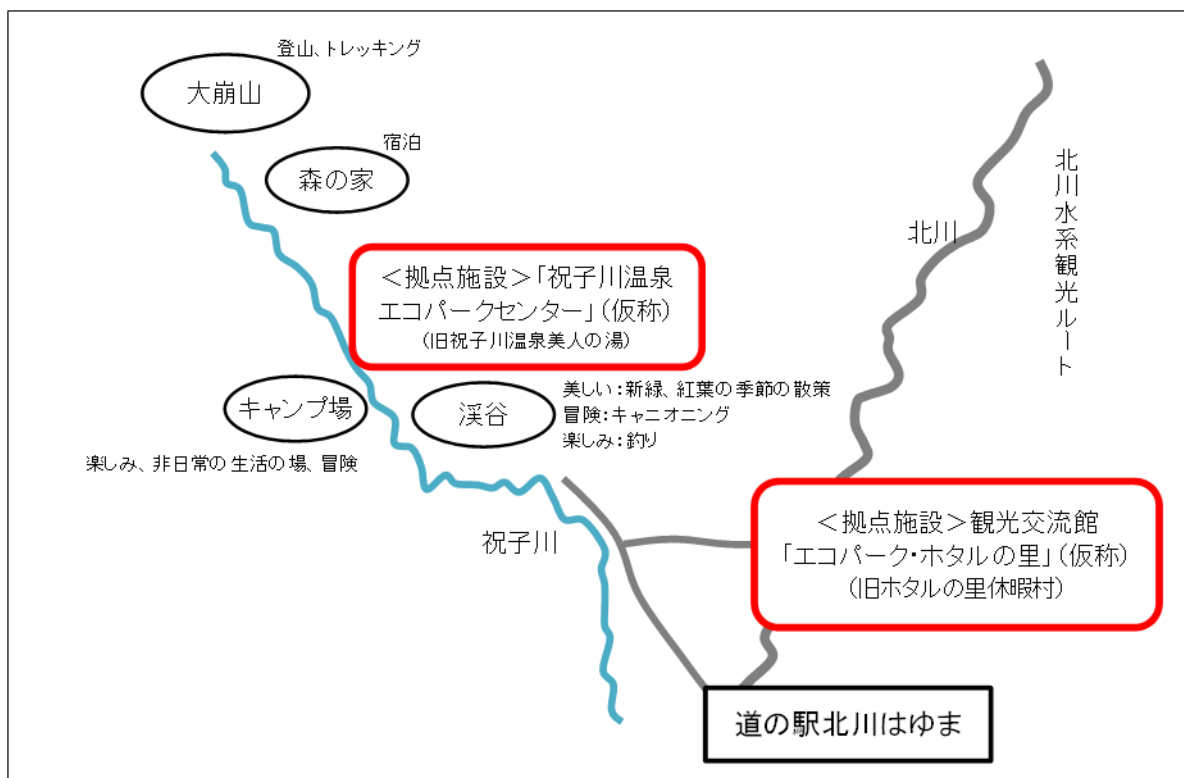


2. 祝子川水系観光周遊ルートの形成

(1)はじめに

- ①第1章「2. 策定の方角 (1) 基本的な考え方」(P1)に沿って、このルートの拠点施設となる祝子川温泉美人の湯の拡充整備を中心に祝子川水系観光ルートを形成する。
- ②主要な観光スポットは次のとおりとする
 - a. 祝子川温泉美人の湯 b. 祝子川キャンプ場 c. 祝子川溪谷 d. 大崩山 e. 大崩森の家
- ③このコースのスポットは、主にアウトドア型レジャーコースと言えるので、この視点から魅力のアップ、付加価値の造成(＝観光商品の開発)に誘客の拡大に取り組む。
- ④このコースは、キャンプ場をはじめ、夏にレジャー客が集中しているのが現状であり、他の季節にも③の視点で取り組む。
- ⑤光ファイバー(大容量通信ネットワーク)の整備を前提に取り組む。
- ⑥民宿溪流荘の業務展開、考え方等とも連携して誘客の拡大に取り組む。

<祝子川水系観光ルートの構成>



(2)観光商品造成の方向

前記「(1)はじめに」に沿って、先進事例等を参考にしながら、各観光スポットの現状、ポテンシャル(潜在的可能性)等に付加価値(検討案)を加え、売れると思われる商品(＝観光商品)の造成イメージを提案する。

観光スポット	現況	付加価値化の手法としての可能性 (検討等)	「観光商品」のイメージ(案)	先進事例
祝子川温泉美人の湯	・第三セクターが経営 ・露天風呂…有 ・食事提供…無 ・利用者数…例年約10,000人	・“いやし”の場、空間の提供(温泉、食事、宿泊) ・快適な休憩サービス (wifi環境の整備、子育て支援等) ・大崩山登山のベースキャンプ ・祝子川及び大崩山の“自然博物館”の機能	「祝子川温泉エコパークセンター」(仮称) ・足湯の新設 ・ジビエ料理の提供 ・宿泊室の新設 ・山カフェ ・子育て支援ルーム(トイレ、授乳室) ・祝子川、大崩山のビジターセンター	串間市:観光交流施設「パカラパカ」 日南市猪八重温泉 ウォーキング、トレッキングの後の疲労回復や心身のリフレッシュに最適。 地元の農産品やアイスクリームも売っている。
大崩森の家 大崩山	・第三セクターが経営 (1人1泊1000円) ・利用者数…令和元年9人、平成30年32人、平成29年61人 ・大崩山登山者数 5000人～8000人	・滞在型の施設・サービスの整備 ・光ファイバーなど大容量通信網の整備 ・安心して登山等が楽しめる登山道の整備 ・エコパーク内の自然体験、学習	・「貸別荘」スタイル ・ワーケーション ・初級コースの整備 ・清掃登山等の開催、自然(動植物)観察会	椎葉村:ワーケーション ・観光と仕事(テレワーク)
祝子川キャンプ場	・第三セクターが経営 ・大崩登山、溪流釣り客の宿泊地。宿泊数近年約800人、バンガロー5棟、テント10張、炊事場 ・イベント等の実施…無	・バンガロー … 居住室のグレードアップ (例:wifi環境の整備等) ・レジャーメニューの提供 ・エコパーク内の自然体験、学習	・「貸別荘」スタイル ・各種イベントの開催 例: 川魚・ジビエ料理教室、子ども木工教室、音楽会 ・自然(動植物)観察会	木城町 えほんの郷 イベント ・ 満月と新月の夜にコンサート ・ ひとり芝居 ・ 里山虫むし合宿 ・ 10才のひとり旅 - その他
祝子川溪谷	・溪流釣り(ヤマメ)が人気 ・キャニオニング(ガイド3人) ・入込客数…約2000人 ・祝子川釣り堀(民間)…バーベキュースペースを併設	・新緑、紅葉の美しい景色をSNSで発信 ・キャニオニング、釣り(ヤマメ)のガイド、釣り名人の紹介	・インフルエンサーの活用 ・誰でもいつでも楽しめる、釣れる(失敗なし) 確約商品の造成	群馬県水上市 キャニオニング ・ 半日コース、1日コース、 ・ 宿泊パック →専門のガイドがフルサポートするので安心

(3) 観光ルートの形成

①「祝子川温泉エコパークセンター」(仮称)プロジェクトの推進(別掲P27)

- ・祝子川温泉美人の湯をルートの拠点施設として整備する。

②冒険型(アドベンチャー型)リゾート環境の整備

ア. 登山、トレッキングルートの整備

- ・大崩山は初心者向け登山ルートを整備する。
- ・大崩山は 1時間～2時間のトレッキングルートを整備する。
- ・神さん山のトレッキングコースの整備と知名度アップに取り組む。
- ・生態系の維持、登山客等の安全・利便性の確保の観点から 休憩及びトイレの設備を整備する。
- ・清掃登山等の開催について民間と協力しながら取り組む。

イ. 祝子川キャニオニングのコース整備

- ・初心者から上級者まで幅広い層が体験できるコースを整備・紹介する。
- ・インストラクター(ガイド)を手配・配置する。

ウ. 駐車場等の整備

- ・夏山シーズンに対応できる駐車場・トイレの収容可能スペースを確保する。

③キャンプ・アウトドア型レジャー環境の整備

ア. 祝子川キャンプ場

＜施設・設備＞ ※現在バンガロー 5棟、テント 10張

- ・キャンパー・アウトドア愛好家等の多様なニーズに対応するため、バンガローは いわゆる「雑魚寝」「簡易二段ベッド」に加えて「1人1室」「シャワー付き」「トイレ付き」などの棟の建設、リニューアル整備に取り組む。

- ・駐車場、公衆トイレ及び自炊設備の整備

- ・オートキャンプ場整備の検討

[※キャンプ場は大崩山登山客のベースキャンプとして利用されることを念頭にして整備に取り組む]

＜レジャーメニューの提供・案内＞

- ・祝子川の清流での水遊び、釣り、水性動植物の観察などのメニュー、ポイント(場所)等を案内する。
- ・四季の溪谷、溪流の美しい景色(インスタ映えポイント)等を情報提供する。
- ・キャンプ場で川魚・ジビエ料理教室、木工教室、探鳥会、音楽イベント、釣り大会など様々な体験メニューを企画・開催する。
- ・前記「案内」「情報提供」は訪れているレジャー客はもとより、インターネット、リーフレット等で情報発信する。

イ. キャンプ場周辺のレジャー環境の整備

- ・祝子川の溪谷を中心にして、周辺の景色、生態系(植物・動物)の状況の観察・学習体験の散歩、トレッキングコースを提供する。

④大崩森の家の整備

- ・キッチンや浴室、シャワー、トイレ等を整備し、滞在型の宿泊施設(=「貸別荘」スタイル)として整備する。
- ・光ファイバーなど大容量通信網の整備等に取り組みワーケーションでの利用をめざす。

＜大崩森の家＞



⑤観光を担う人材の確保と育成(P12 再掲)

ア.「北川エコパーク観光応援隊(仮称)」の結成

- ・魅力ある観光ルートを形成するためには、行政と民間の連携を進める必要がある。
- その中で、民間の役割として、地域住民、ボランティア、地域活動グループ、NPO(NPO法人ひむか感動体験ワールド等)などが参画する「北川エコパーク観光応援隊(仮称)」の結成に取り組む。
- 「応援隊」の活動内容(無償)…(例)登山道の整備、観光スポットの草刈りや清掃、ガイド(案内・説明等)など。

イ. 有償ボランティアガイドの養成

- ・無償のボランティアガイドなどを対象に知識、話術、パフォーマンス等を磨き上げるための研修会等の開催に取り組み、有償のボランティアガイドへの養成をめざす。

ウ. イベントなどの体験プログラムを企画・実施する専門家・グループの育成・拡大

- ・地域活動グループやNPO(NPO法人ひむか感動体験ワールド等)などが登山、トレッキング、キャニオニング、釣りなど体験プログラムのガイド・インストラクター資格習得に取り組むことで、専門家・グループの育成・拡大をめざす。

⑥安心・安全な観光ルートの整備

- ・大崩山や祝子川の危険箇所への看板の設置など登山客やレジャー客等に対して注意を呼びかける。
- ・大崩山、祝子川溪谷の見どころや危険箇所等を掲載したマップや登山、釣り、川遊び等のマナー・ルールを掲載したリーフレットを作成して観光客に配布する。
- ・ガイド、インストラクター等を対象に、安全や救急救助に関する講習の受講に取り組む。

4. 「道の駅北川はゆま」の整備充実

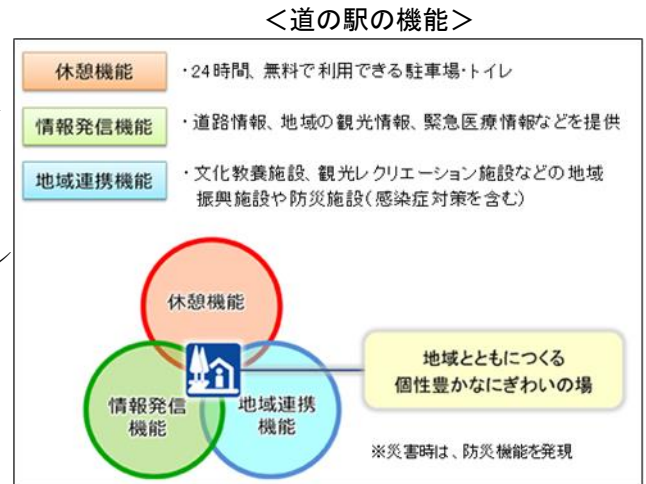
(1) 基本的な考え方

2つの観光周遊ルートは「道の駅北川はゆま」を起点・終点にしており、その存在意義、役割は極めて大きいものがある。このため、下記の基本的な考え方に沿って整備充実に取り組む。

①「道の駅」の機能を充足する

＜道の駅の機能＞（国土交通省）

- a. 休憩機能…24時間、無料で利用できる駐車場・トイレ
- b. 情報発信機能…道路情報、地域の観光情報、緊急医療情報などを提供
- c. 地域連携機能…文化共用施設、観光レクリエーション施設などの地域振興施設



②地域の観光情報の提供と地域振興施設の視点に立つ整備

上記機能のうち、観光周遊ルート起点・終点という役割・機能の観点から、観光情報の提供と観光客の利便性を高める施設に重点を置く整備充実に取り組む。

(2) 施設・設備及びサービス機能充実の方向

①北川地域の観光情報の提供機能の強化・充実

北川地域の観光案内、宿泊施設の予約、ガイドの手配、リゾート、アウトドアスポーツの適地・時間の案内（子育て支援機能サービス）など 観光情報の提供機能の充実に向けて下記に取り組む。

a. 施設・設備のリニューアル

例えば 駐車場の拡大、トイレの増設、授乳スペースの確保、レンタサイクルの活用など

b. 観光案内のコンシェルジュの配置

観光案内、宿泊予約等を道の駅はゆまでワンストップサービスを提案するため、観光コンシェルジュ（仮称）の配置に取り組む。

②地域振興機能の拡充・強化

下記の機能の拡充・強化に取り組む。

- a. 北川地域の特産品の紹介・販売
- b. 農産品の直売
- c. 農産品等の生産者間及び観光客との交流の場
- d. 食事処
- e. レストラン・売店等での雇用
- f. 災害時の指定避難所

4. 観光消費の促進方策の検討(→「売れる商品」の造成と観光スポットが「複数⇄束になって売る」)

観光による消費の拡大(＝観光スポットで北川の特産物、グッズ、工芸品、飲食、施設入館料等の「物」や「サービス」が売れること)は観光産業による地域活性化(地域が元気になる)を促進する。

については、観光が産業として成長するためには、観光スポットを中心に北川地域内で「売れる商品」を開発、造成して観光客等の購買力(消費力)を高める必要がある。また、観光スポットの人気や認知度を高めて観光客等の流入を拡大するためには、スポットの単体よりも複数のスポットが「線」や「面」でつながり、合体してルート(線)やサークル(円)を構成した方がベターな方策と推量される。(P8「第3章 1. 観光による地域活性化の視点」参照)

このようなことから前記(P11)において各観光スポットごとにイメージした「観光商品の造成の方向」及び先進事例等を参考にして、「売れる商品」の造成が肝要である。

また、北川水系・祝子川水系観光ルートにおいて、各観光スポットを「線」(または面)として束ねて、スポットの相乗効果により、観光消費を促進する方策を検討する必要がある。

なお、北川地域のショッピングスポット、マーケットは、「道の駅北川はゆま」であり、前記(P18)のような施設・設備及びサービスの整備・充実により、販売力(消費誘引力)を高めていく必要がある。

第4章 拠点施設(ホテルの里休暇村・祝子川温泉美人の湯)整備構想

1. 観光交流館「エコパーク・ホテルの里」(仮称)プロジェクト

(1) 構想の背景

①観光交流人口の拡大

近年の人口減少や高齢化の進行は今後とも続くことが見込まれる。このような中で地域の活性化を図るためには、産業の振興、生活環境(医療、福祉など)の充実、社会資本の整備などとともに、観光的視点からの観光客及び交流人口の拡大に取り組む必要がある。

②エコパークらしい自然と共生する観光地づくり

ユネスコエコパーク登録地域として、核心地域の大崩山はもとより、北川・祝子川の清流、ホテルの名勝地として生態系を維持・存続し、自然と共生する地域づくり及び観光資源としての活用に取り組む必要がある。

③ホテルの里休暇村の再構築

平成の時代までに、夏になると北川・小川の流域ではホテルが乱舞しており、それを由来としてホテルの里休暇村(ホテルの館、ホテルの宿、川舟の館)が誕生している。このようにホテルは清流・川舟とともに歴史的に北川地域の象徴・シンボルであり、今後ともエコパーク、そして観光の有力な資源になる可能性がある。このため、由来・伝統・歴史を引き継ぎ、新しい観光的視点を加え、「休暇村」の活性化に取り組む必要がある。

(2) 構想の基本的な考え方

①観光・交流拠点施設の整備

観光的視点から地域の活性化を図るためには、各観光スポットの魅力アップ及び観光スポットを線でつなぐ観光ルートの形成が必要である。その中で特にルートの拠点となる観光資源・施設(いわゆる観光交流の「目玉商品・サービス」)が存続することが望ましい。

このため、北川エコパーク及び北川水系観光ルートの拠点施設としてホテルの里休暇村を位置付け、

- a. エコパークへの理解を深めるための機能 ～ビジターセンター～
- b. 観光案内、相談、宿泊など観光のワンストップサービスの機能 ～観光コンシェルジュ～
- c. 休憩、軽食(カフェ)、研修、会議、スポーツ合宿等の交流スペース、レンタサイクル基地、サービス機能
～おもてなし～

等を有する施設にリニューアルする。

リニューアルにあたっては、SDGsや脱炭素社会実現に配慮した、太陽光発電など再生エネルギーの活用を検討する。

また、併せてホテルの里休暇村の各施設を有効活用できるような管理体制の整備に取り組む。

②ホテルの名勝地の再生

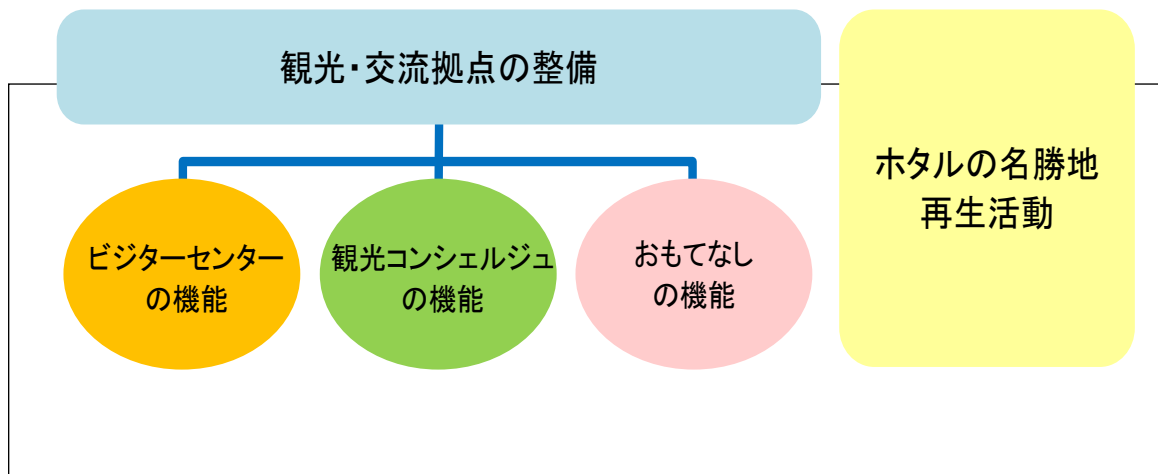
ホテルは歴史的・伝統的に地域のシンボルであり、また、北川エコパークの生態系のシンボルになることは、観光資源としての価値を高める可能性がある。

地元には、有志がホテルマップを作成したり、生息する河川の清掃等に取り組んでいるなど住民のホテルへの愛着は続いている。

このようなことから、ホテルの名勝地再生を促進するとともに、リニューアルする「休暇村」のスペースにこの活動の拠点を整備する。

以上のような構想の背景を踏まえ、基本的な考え方に沿って、ホテルの里休暇村をリニューアルし、新たな観光・交流拠点施設として整備するため、観光交流館「エコパーク・ホテルの里」(仮称)プロジェクト構想を策定する。

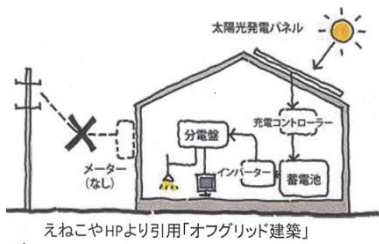
＜観光交流館「エコパーク・ホテルの里」(仮称)の機能・役割＞



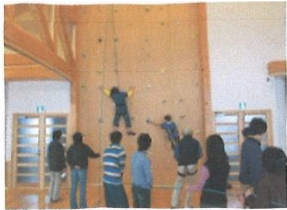
(3) 構想の概要(イメージ)

○ホテルの里休暇村を構成するホテルの館・ホテルの宿・川舟の館等を「a. エコパークへの理解を深めるための機能 ～ビジターセンター～」、「b. 観光ワンストップサービス機能 ～観光コンシェルジュ～」、「c. 交流スペース・サービス、スポーツ合宿機能、レンタサイクル基地 ～おもてなし～」、「d. ホテルの名勝地再生活動」という4つの視点に立って、施設・設備のリニューアル及び快適・便利な観光・交流サービスを提供する。

<観光・交流拠点の整備>

施設・設備の整備とサービスの充実	a. エコパークへの理解を深めるための機能 ～ビジターセンター～	①ハード分野 ア. 展示・紹介・学習コーナー ・大崩山(エコパーク核心地域)の自然生態系の写真、書籍、標本、パネル等 ・北川・祝子川水系の自然生態系 イ. 映像ルーム ・VR(バーチャルリアリティ)体験 <VR>  <タッチパネル>  <映像スペース>  <標本>  ウ. 自然ふれあいコーナー ・エコパークに生息する動植物、昆虫の標本などに触れる、動物の鳴き声を聞く エ. SDGs、脱炭素社会実現に配慮した施設改修 ・施設の改修にあたっては、太陽光などの再生エネルギーの活用を検討する <オフグリッド建築> 
		②ソフト分野 ア. 第3章北川エコパーク観光周遊ルートの形成構想 イ. 第4章「2. 祝子川温泉エコパークセンター(仮称)プロジェクト」より、「学ぶ」…大崩山や祝子川のエコパークへの理解を深める場としての機能～ビジターセンター～(P27) ウ. 北川エコパークの意義・認識度アップに向けての啓発活動 エ. リゾート・スポーツ感覚でエコパーク内の生態系を見たり、感じたりするアウトドア型のリゾート・スポーツメニュー(登山、ウォーキング、エコツアー、自転車のツーリング、カヌーツアー等)の企画・実施

施設・設備の整備とサービスの充実	b. 観光ワンストップサービス機能 ↳観光コンシェルジュ	①ハード分野 ア. 観光スポット(北川地域)の紹介コーナー ＜観光・イベント案内＞ ・映像(VR、DVD等) ・写真パネル、雑誌等  イ. 案内窓口コーナー ・ガイドの紹介、手配 ・イベント、企画行事等の紹介 ・宿泊予約等 ＜各種パンフレット＞  ウ. 特産品、土産品の販売スペース ＜特産品・土産品コーナー＞   エ. レンタサイクル基地(再掲P11) ・スポーツ・2人乗り・電動型など多種多様なレンタル自転車を設置 ＜レンタサイクル＞ 
		②ソフト分野 ア. 観光スポットの紹介・案内等のガイド(観光コンシェルジュ)の配置 イ. 観光ルートの特別イベントの企画 ウ. 観光客誘致・PR活動の展開 エ. VRで北川エコパークのアウトドアを擬似体験できるサービスの提供 オ. カヌー体験・教室等の受付窓口機能

施設・設備の整備とサービスの充実	c. 交流スペース・サービス、スポーツ合宿機能、レンタサイクル基地 くおもてなしく	ア. 休憩スペース(=ラウンジ) (子育て支援コーナーを含む) <休憩スペース>  <ラウンジスペース>  イ. 軽食、ドリンクコーナー(=「川カフェ」) <カフェ>  ウ. リモートワーク(学習・研究・仕事)スペース エ. 光ファイバーなど大容量通信ネットワーク及びWi-Fi <リモートワーク・情報収集スペース>   オ. 多目的ホール ・会議、セミナー、コンサート等 カ. インドアクライミング キ. アウトドア・リゾート・スポーツ客、アスリート等の 利便・リラックススペース(シャワー、更衣室、 仮眠室など) ク. レンタサイクル基地(再掲P11) <多目的ホール>  <インドアクライミング> 
------------------	--	---

d. ホタルの名勝地再生活動

①ハード分野

- ア. ホタルのビオトープ(拡充)
- イ. ホタルの産卵、幼虫の飼育の場
- ウ. エサ(=カワニナ)の養殖

<ホタルの館内のビオトープ>



<ホタル自然繁殖水路(ビオトープ)>



②ソフト分野

- ア. ホタル育成組織の構築
 - ・ホタルの卵の確保から成虫の飛翔までの各過程(ステージ)を担う住民主体の組織の構築
- イ. エサ(カワニナ)の確保、生育環境の整備(川の除草など)
- ウ. 観察会・イベントの開催

<ホタルの幼虫大量飼育装置>



<カワニナの養殖>

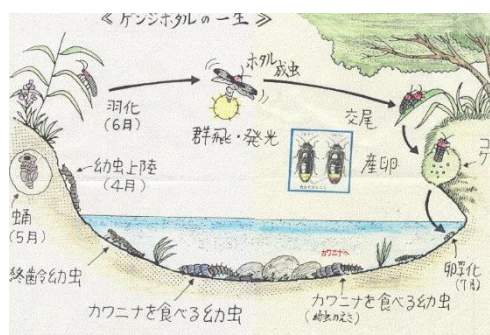
<水路で養殖(屋外型)>
(愛知県岡崎市)



<水槽で養殖(屋内型)>
(長野県辰野町)



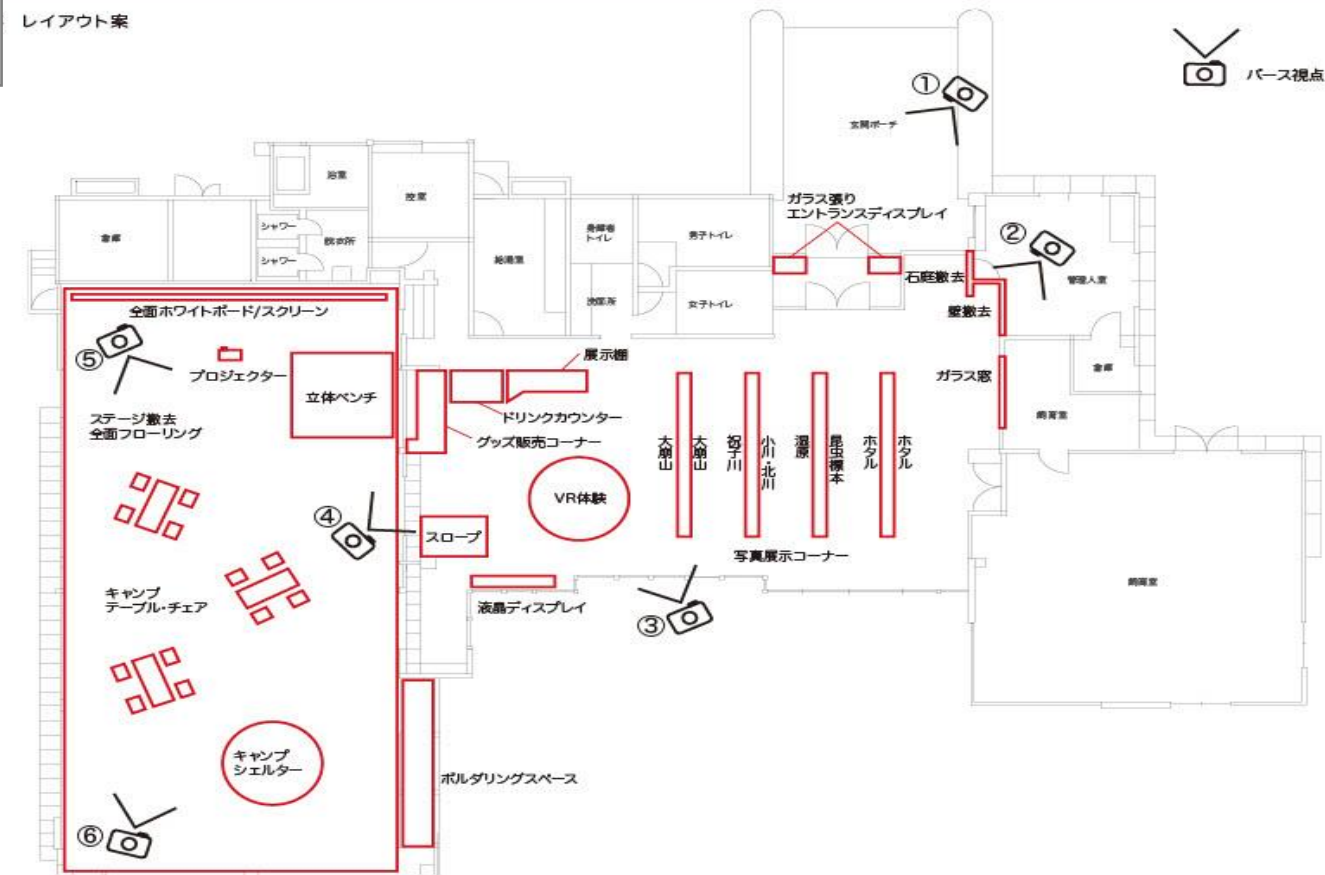
<ホタルの成長過程>



ホタルの里休暇村（ホタルの館）
施設改修イメージ

レイアウト案

DESIGN PLAN



onokobo design	Memo	Title	ホテルの館改修工事	プロジェクト名	Date	210616	Page	-

ホテルの船改修 イメージ・ベース



②写真展示コーナー



③VRコーナー・ドリンクカウンター-1



④VRコーナー・ドリンクカウンター-2



⑤休憩・ポルダリングスペース-1



⑥休憩・ポルダリングスペース-2



2.「祝子川温泉エコパークセンター」(仮称)プロジェクト

(1)構想の背景

①大崩山・祝子川などの自然リゾート資源の存在

大崩山の登山、祝子川溪谷の川遊びや釣り、紅葉狩り、キャンプ場などに登山客はもとよりレジャー客が夏を中心に訪れてきているが、通年型の観光客の誘致に取り組む必要がある。また、併せて高齢化の進む祝子川地域の活性化を図り、地域の存続を図る必要がある。

②大崩山はエコパークの核心地域

大崩山は、九州百名山として人気、知名度が高い。ユネスコエコパーク登録を契機に、その自然生態系の保全が一層重要になっている。

③エコパークへの理解の拡大

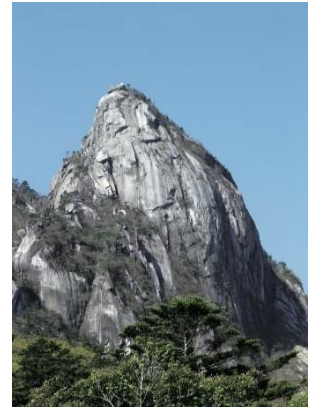
エコパークとして自然生態系、景観、生活の営みを維持させるためには、多くの人々の理解と来客層の拡大を図る取組が必要である。

④祝子川温泉美人の湯の活性化

天然温泉の祝子川温泉は、祝子川溪谷の上流、大崩山の麓に位置しており、肌をすべすべに整える効果が高い重曹泉の泉質を持ち、「美人の湯」として登山客やレジャー客からも親しまれている。

ユネスコエコパーク登録を契機に、温泉に宿泊機能の付与やレストランの再開等により、活性化に取り組む必要がある。

<大崩山>



<祝子川温泉美人の湯>



(2)構想の基本的な考え方

①拠点施設の整備

観光的視点から地域活性化を図るためには、各観光スポットの魅力アップ及び観光スポットを線でつなぐ観光ルートの形成が必要である。

その中で特にルートの拠点となる観光資源・施設(いわゆる観光交流の「目玉商品・サービス」)が存続することが望ましい。

このため、ユネスコエコパークの「核心地域」である大崩山の麓、祝子川の源流に位置する祝子川温泉美人の湯を祝子川水系観光ルートの拠点施設とし、

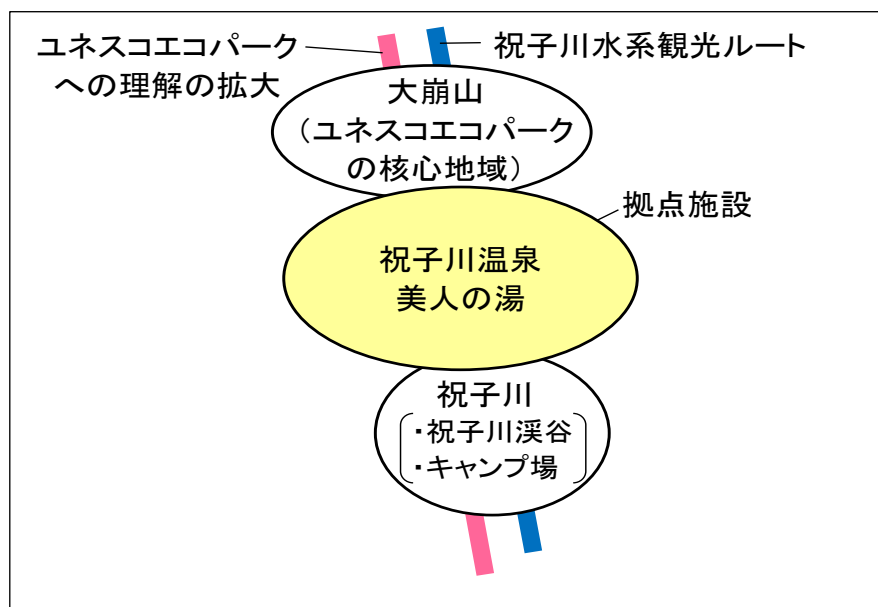
- a. 「癒やす」…温泉、休憩、食事、宿泊、特産品の提供等の場としての機能 ～くつろぎ～
- b. 「学ぶ」…大崩山や祝子川のエコパークへの理解を深める場としての機能 ～ビジターセンター～
- c. 「楽しむ」…観光案内、体験プログラムの企画・実施、情報発信の場としての機能 ～おもてなし～

等を有する施設としてリニューアルする。

なおリニューアルにあたっては、脱炭素社会の実現を見据え、既存電力の利用に加え太陽光等の自家発電による環境への配慮や、燃料費の削減について検討を行っていく。

また、祝子川温泉、祝子川キャンプ場及び大崩森の家等の一体管理を図り、利用者の利便性を上げるとともに、運営の効率化を図ることにより祝子川温泉の拠点施設としての機能強化を図っていく必要がある。

＜拠点施設の位置付け＞



②エコパークへの理解を深めるための意識啓発

祝子川水系観光ルートには、祖母・傾・大崩ユネスコエコパークの核心地域である大崩山が含まれている。また、他の観光スポットも緩衝地域に位置している。

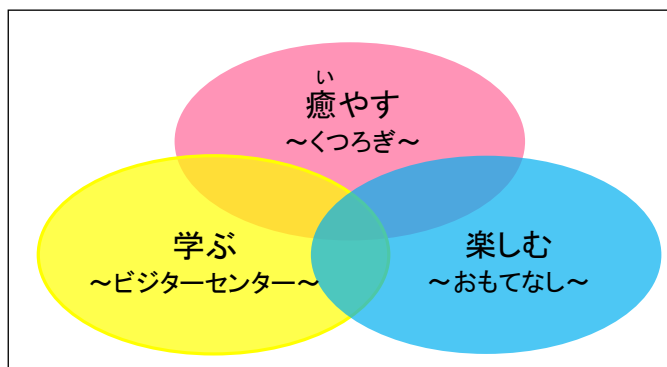
このようなことから、この地域を訪れる人々に対して、ユネスコエコパークへの理解を深めるための取組を進める。

以上のような構想の背景を踏まえ、基本的な考え方に沿って、祝子川温泉美人の湯をリニューアルし、祝子川水系観光ルートの拠点施設として新たに整備するため、「祝子川温泉エコパークセンター」(仮称)プロジェクト構想を策定する。

(3) 構想の概要(イメージ)

祝子川温泉美人の湯を「a. 温泉、休憩、食事、宿泊、特産品の提供等の場としての機能 ～くつろぎ～」、
「b. 大崩山や祝子川のエコパークへの理解を深める場としての機能 ～ビジターセンター～」、「c. 観光案内、
体験プログラムの企画・実施、情報発信の場としての機能 ～おもてなし～」という3つの視点に立って、施設・
設備のリニューアル及び快適・便利な観光サービスを提供する。

<「祝子川温泉エコパークセンター」(仮称)の機能>



①「癒やす」…温泉、休憩、食事、宿泊、特産品の提供等の場としての機能 ～くつろぎ～

- 温泉(温泉、露天風呂、足湯)
- 休憩・滞在スペース[子育て支援コーナー(授乳室、トイレ)、宿泊室]
- 軽食・ドリンクコーナー(=「山カフェ」)、レストラン(ジビエ料理の提供)
- 特産品、土産品の販売スペース

<足湯>



②「学ぶ」…大崩山や祝子川のエコパークへの理解を深める場としての機能 ～ビジターセンター～

- 展示コーナー
 - ・ユネスコエコパーク核心地域(大崩山)、緩衝地域(祝子川地域)のジオラマ
 - ・大崩山及び祝子川における稀少な動植物の写真や標本、四季の行事や自然保護活動のパネル等
- 映像コーナー
 - ・大型モニター、VR(バーチャルリアリティ)型等
- 学習・研究コーナー

<VR(バーチャルリアリティ)体験>



③「楽しむ」…観光案内、体験プログラムの企画・実施、情報発信の場としての機能 ～おもてなし～

- 観光スポット、イベント、行事等の紹介(パンフレット・チラシ等の配布、クチコミ情報等)
- イベントなど体験プログラムの企画・実施
- ガイド、体験プログラム、宿泊等の受付窓口
- 四季の景観、インスタ映えスポット、イベント等の情報発信
 - ・案内所での発信(写真、ポスター等の掲示)
 - ・SNSを活用した発信(インスタグラム、Facebook、ツイッター等)

<各種パンフレット>



第5章 克服すべき課題

ユネスコエコパークの登録を契機にして、自然と共生した地域づくりと観光的視点から「観光周遊ルート形成構想」及び「拠点施設整備構想」を推進するためには、下記の課題を克服する必要がある。

1. 住民と行政が連携した観光交流館「エコパーク・ホテルの里」(仮称)の整備

この施設は北川エコパーク・観光ルートの中核的施設であると同時に、今後、北川地域の活性化、振興を図る上で中核的役割を担うことが期待できる。

例えば、高齢化の進行、人口減少が進む中で地域内外の人々との交流、交流人口(観光客、ビジネス客等)の拡大は、地域発展の大きなエネルギーとなる。

このようなことから、「交流の拠点」の整備は急務であり、住民と行政が連携、一体化して取り組む必要がある。

2. 観光人材の確保と育成

観光・交流が活発化するための観光スポットの磨き上げ、観光ルートの形成、観光施設の運営等には、売れる観光商品の企画・開発に能力がある人、博識・話術・パフォーマンス等に優れたガイド・インストラクターなど観光産業にふさわしい人材の確保と育成が重要である。

3. 通年型の観光スポットづくり

両観光ルートとも「体験する観光」・アウトドア型観光・スポーツのレジャー客が多いが、その客は夏を中心に来訪している。このため両ルートの周遊を活性化させるために、フルシーズンに通用するイベント等の企画(四季折りの美しい景観のSNS発信、農産物の収穫への参加の誘いなど)をルート全体で造成する必要がある。

4. 高度情報通信基盤の整備

「インスタ映え」など個人のツールで観光スポットの人气が上昇する時代が到来している。また、最近はリモートワーク、ワーケーションなど会社とは離れた場所での「仕事」環境のニーズも高まりつつある。

このため、観光情報の発信・収集の利便性、高度化に向けて、光ファイバーなど大容量通信網、Wi-Fiなど高度情報基盤の整備に取り組む必要がある。

5. 行政と民間の役割分担と連携

2つのプロジェクトを構築するためには、例えば行政が施設の整備、リニューアルを担当し、具体的な取り組み内容の企画・実施は、民間の経験とノウハウを導入、活用するなど行政と民間がそれぞれの役割を担うとともに、両者が連携する必要がある。

また、民間の中でも地元「のべおか道の駅株式会社」は、道の駅北川はゆま等の管理・運営、食事の提供サービス等にもノウハウ、実績を有しており、今後とも連携する必要がある。

6. 北川エコパークの認知度アップの取組

祖母・傾・大崩ユネスコエコパークは、綾ユネスコエコパーク、世界農業遺産高千穂郷・椎葉山地域とともに、本県の国際的な地域資源ブランドである。

また、地域の自然とともに伝統文化、環境型の農林水産業、衣食住の儀礼など自然と共生した日常生活は農山村の個有の文化として評価されている。

このような地域資源ブランド、価値あるエコパーク個有の文化等を観光的視点から北川地域の活性化構想・プロジェクトを推進するためには、「北川エコパーク」の認知度アップに取り組む必要がある。

<本県の地域資源ブランド>
(令和2年12月5日 宮崎日日新聞)

